

早めに気づいて!!

緑内障

緑内障とは？

緑内障とは、視神経が障害される病気です。

日本では、40歳以上の約20人に1人は緑内障があるとされており、中途失明の原因の第1位になっています。

慢性の緑内障の場合、初期には視野が中心以外の部分から欠けていきます。しかし、脳が周りの像の情報はめ込んで補い、欠けた部分はぼやけて見えるため、視野の欠損になかなか気がつきません。自覚障害が現れてくるのは、緑内障の中期になってからで、視神経が障害され始めて5～10年ほど経ってからです。

治療法は？

緑内障になってしまった場合、残念ながらいったん障害された視神経は元に戻せません。しかし、眼圧を下げることで、ほとんどの緑内障は進行が抑えられることが明らかになってきました。薬による治療としては、「点眼薬」を使って眼圧を下げるのが基本です。



●β遮断薬

●炭酸脱水酵素阻害薬

眼圧を調整する透明な血液「房水」がつくられるのを抑えます。

●プロスタグランジン関連薬

●α1遮断薬

●副交感神経刺激薬

●交感神経刺激薬 房水の排出を促します。

また、両方の働きがある「α1β遮断薬」を用いることもあります。

薬によっては 目が乾く 充血する まつげが伸びる 目の周りが黒くなるなどの副作用があります。

緑内障は、早期発見が大事ですが、両方の目で見ているとなかなか気がつきません。時々片方の目で新聞を見るなどして、見え方に変化がないかチェックしてください。また、40歳を過ぎたら年に1回は眼科で検査を受けましょう。

